
弱肉強食 I N ゲーム

モンさん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

弱肉強食INGゲーム

【Nコード】

N9363P

【作者名】

モンさん

【あらすじ】

前回、星から星に移動するために「船」に乗った達也。こんどの星は海ばかりの星「ブルー・プラネット」。そこで未知のフィールドを知るために採取クエストを受ける。

パート2

「うえゝ気持ちわるゝ」

星と星との間を行き来するのに使われる「船」と呼ばれる乗り物だが達也はどうも好きになれないな…と思っていた。ゆさゆさ上下に揺れるし、トイレもないのでかなり不便だった。

「がまんしろ。もうすぐ…う」

「ペンパーのおっさんもだめなのかよ…うげ」

見るとペンパーも口を押さえていた。

「ん…もうすぐ着くぞ。武器忘れんなよ」

見ると窓の外に星があった。外見は大半が雲に覆われてよくわからなかったが、時折雲の隙間から海が見えた。名を「ブルー・プラネット」と言うらしい。いままで達也がいた星はジャングルに覆われていた「グリーン・プラネット」と言う少し原始的な星だったが、今回のブルー・プラネットはどんな星になるのか少し楽しみだった。プシューと言いながら「船」が海に着陸した。グリーン・プラネットでは陸から離陸していたが、海に着陸したのでより「船」らしい感じが伝わってきた。

「うゝやっかついたのかゝもう二度と乗りたくねゝ」

「これからも何回…いや何十回だな、乗ることになるぞ」

「ええゝ…！もう無理ゝ」

船を降りるとぐらつゝと地面がゆれた。正確には地面ではなく、海の上にかだのような形で海に浮いていた。なのでしっかりとした足場ではなく、常に波に揺れてゆらゆらゆれていた。

「とりあえずはこのモンスターの把握と宿取りだな」

「そんな堅いこと言わずに討伐…とはいかなくても採取クエストぐらいでよくね？」

「このモンスターは前の星と比べて凶暴なモンスターが現れるぞうだ。だから前の星よりも慎重に仮をする」

そういつてペンパーは「ギルド」と呼ばれるクエストの管理をしている「ギルドハウス」に向かった。

ギルドハウスは星にひとつずつあり、ギルドハウスからはクエストが受けられない。そのため通常であれば末端であるギルドカウンターからクエストを受ける。

「なあ、なんでギルドハウスなんだよ？」

「ん？ギルドハウスならギルドカウンターから集められたこの星全体の情報が得られるからだ」

「ああ」

達也は納得した。確かにギルドハウスではクエストは受けられないが、代わりに情報を共有できる。

狩り人は武具と同じくらいに情報が重要だ。その情報は当然人が多いほうが多く集まる。その情報の中枢であるギルドハウスには人の多い街よりも莫大な情報が得られる。

10分後一人ギルドハウスに入っていたペンパーが出てきた。

「どうだった？」

「この星は最近やたらと凶暴なモンスターが増えているそうだ。

この街にも時々進入してきては狩り人が撃退しているらしい」

「え？マジ！？ここも安全じゃないの？」

「ああ、だが生活するためにも抜け出すためにもこの星をもう少し滞在する。そうだな…100時間はここだな」

ここには時間が無いのでプレイ時間で計算する。100時間と言えばだいたい1日4〜5時間プレイして3週間ぐらいだ。

そんなことを計算しているうちに、いつの間にかギルドカウンターの前までできていた。

「まずはこいつだな」

そういつてペンパーは達也に向かって一枚の紙を差し出した。

「ん？…特産海草10束の納品？なんだ特産海草って」

「特産海草とはここ、ブルー・プラネットで唯一採れる海草だ」

「海草ってことはまさか海に潜るんじゃない？」

「なにを言っている、当たり前だそんなこと」

ええ、達也は心のなかでがっかりしていた。実はまだペンパーに
いっていないのだが、達也はかなりの力ナズチで現実世界ではプー
ルをまともに10mも泳げなかった。

「な、なあ…」

「ん？なんだ」

「実はオレ…泳げないんだ」

達也は思い切ってペンパーに言ってみた。そうしたらペンパーは

「ん？ハハハハハ」

「な、なんだよ笑うことないだろ！」

「あのなあそろそろ理解しろよ。ここはゲームの世界だぞ。すべて
が平等だ。そんな中で現実で泳げないからってゲームの世界でも泳
げないわけがないだろ」

「あ、あははは…」

そうだった。ここはゲームの世界だ。この世界がだんだん現実の
世界に思えてきた。

「装備を整えておけ、何が出るかわからん。ひよっとしたらいきな
り大型が出てくる可能性もあるからな」

「ん、わかった」

そういうととつたばかりの宿に戻って、装備やアイテムが入った箱
の中から必要なものを取り出した。

装備はまだ一セットしかできてなかったので変えることはできない。

「よし、おわったぞペンパーおっさん」

「オレも終わった。よしいくぞ」

そうしてまだ見ぬ新しいフィールドへと出発した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9363p/>

弱肉強食INゲーム

2011年1月9日07時45分発行